

「第31回トータルライフ医療学術集会」 開催にあたって

「第31回トータルライフ医療学術集会」実行委員長 江川恵子

本日はお忙しい中、「第31回トータルライフ医療学術集会」に、ようこそおいでくださいました。皆さまご参加を心よりお待ちしております。1992年に始まったこの学術集会も、今年で31年目を迎えました。毎年、本会を楽しみにしていただき、誠にありがとうございます。

今年は、新型コロナ禍に加えて、2月にはロシアによるウクライナへの侵攻、安部晋三元首相銃撃事件など、「まさか」と思うことが立て続けに起こりました。世界中の人がこれほどまでに不安を抱え、不確かさを感じたことはなかったのではないのでしょうか。

そして、超高齢多死社会に突入した日本社会において、人や社会とのつながりが失われ、身体的、精神的、社会的フレイルの高齢者が増加し、同時に、これからの未来を担ってゆく子どもたちの自殺が増加している現実、本当に胸が痛みます。このままでは、日本が急速に活力を失ってゆく危険性を感じずにはいられません。

そのような中であって、高橋佳子先生は、「こころ元気・からだ元気・つながり元気」の「ウェルビーイング」に向かうことこそが、今、日本が向かうべき先であるとその道を示してくださっています。医療の現場において、その鍵は、「唯物的人間観・世界観」から、人間を魂と見る「永遠の生命の人間観・世界観」への転換と確信しています。

今回の学術集会のテーマは、日本を元気にしたいとの願いを込め、「日本再生の潮流を起こす——超高齢多死社会を迎え撃つ」とさせていただきます。トータルライフ医療の実践原則に基づいて挑戦をされた数多くの発表が行われます。本当に楽しみです。

また、教育講演の講師として、河合雅司先生（作家・ジャーナリスト 人口減少対策総合研究所理事長）をお招きしました。超高齢多死社会を研究している方で未来の日本の予測をし、発表されています。超高齢多死社会の現実を真正面から受けとめたうえで、その後のパネルディスカッションでは、トータルライフ医療どのように立ち向かっているかの実践と未来のヴィジョンを提示し、共に深めてゆきたいと思います。

本日の学術集会が、参加された皆さまにとって真に意味あるものとなり、更なる医療実践への糧となって、希望ある未来をご一緒に創ってゆく機会になることを心より祈念いたします。

プログラム

午前の部

10:00 ~ 10:10 開会の辞 学術集会実行委員長 江川恵子

10:10 ~ 11:10 シンポジウムⅠ：〈TL人間学（魂の学）に基づく精神科医療への挑戦〉

座長

くまがい眼科 熊谷和久
藤枝市立総合病院 福島一成

(1) 治療抵抗性統合失調症診療における
「因縁果報ウイズダム」の取り組み3 八事病院 早川雅美

(2) 「川の心」の菩提心をスキーマ療法に加えて改善した
統合失調症の1症例 たまきクリニック 玉置 元

(3) TL人間学（魂の学）に基づく「対話の医療」と
協働によって開かれる精神科医療における可能性
—— 認知症事例との経験を通して 西岡病院 東中園 聡

(4) 精神症状、身体症状が著明に改善した
複雑性心的外傷後ストレス障害（複雑性PTSD）の1例
藤枝市立総合病院 福島一成

11:10 ~ 12:00 シンポジウムⅡ：〈TL人間学（魂の学）に基づくイノベーションへの挑戦〉

座長

済生会向島病院 村田 透
東京トータルライフクリニック 穴水聡一郎

(1) 「因縁果報ウイズダム」に従って開発した
新しい超音波ガイド下穿刺術の腰痛治療の有用性の検証
鹿児島共済会病院 1) 健診・老人医療科 2) 九州腰痛・仙腸関節センター
古賀哲也 1) 古賀公明 2)

(2) 入浴補助用具「お風呂ネット湯らりん®」の商品化への歩み
—— バトンをつないで 訪問看護ステーションそら 的場千賀子

(3) 「7つの視点」による診断プロセス適正化に関する
後方視的検討 東京医科歯科大学 総合診療科 馬淵 卓

12:00 ~ 12:10 トータルライフ医療研究会2022年度総会

12:10 ~ 12:45 昼食休憩

12:45～13:40 セッションⅠ-①〈新しい在宅医療・介護のウエーブを起こす〉

座長 ウエルビーイング21 居宅介護支援事業所 山田理恵子
梅ノ辻クリニック 山田洋司

(1)「因縁果報ウイズダム」により多職種が連携し、
一人暮らしの利用者を自宅で看取ることができた1症例
トータルライフ訪問看護ステーション雷門 中野由美子

(2)「因縁果報ウイズダム」の実践による
小規模訪問介護事業所の赤字運営からの脱却への挑戦
ウエルビーイング21 訪問介護事業所 服部賢太

(3)「ベストチョイス勉強会」により
ヘルパーの役割を再認識した1事例
ウエルビーイング21 居宅介護支援事業所 加藤真美

(4)人間を魂と見る在宅医療の挑戦
——ACPを通して究極の選択に寄り添う
訪問看護ステーションそら 山岸康幸

13:40～14:20 セッションⅠ-②〈TL人間学（魂の学）に基づく対話の医療を実践する〉

座長 岩手医科大学病院 山田哲也
江別市立病院 高橋早織

(1)治療困難な疾患である自己臭症患者に対する治療への挑戦3
小村肛門科医院 小村憲一

(2)「健康と長寿のための因縁果報」を土台に置いた
長期にわたる対話と同伴により、病と前向きに向き合い
生命予後の延長をみたと思われる卵巣がんの1例
東京トータルライフクリニック 長屋直樹

(3)本心の響き合いにより患者だけでなく主治医も癒やされた
膀胱がん終末期の1症例
島根大学医学部附属病院 松田真一郎

12:45 ~ 13:25

セッションⅡ-①

〈TL人間学（魂の学）に基づく実践が拓く新たな医療の可能性Ⅰ〉

座長

済生会向島病院 井上 清
紺井医院 紺井一郎

- (1) 医療法人トータルライフ医療会の歩みを振り返って
感じる呼びかけ 東京トータルライフクリニック 穴水聡一郎
- (2) 歩行改善を通して人生に希望を取り戻す
一般社団法人自律矯正歩行協会 竹末可南絵
- (3) 精神疾患の面談において、疲れることのない対話実践が
可能になった背景についての考察 吉野内科・神経内科医院 三島修一

13:25 ~ 14:20

セッションⅡ-②

〈TL人間学（魂の学）に基づく実践が拓く新たな医療の可能性Ⅱ〉

座長

東京トータルライフクリニック 大脇千代美
東京トータルライフクリニック名古屋分院 井口清吾

- (1) 患者の病気克服のウイズダム実践に、
高橋先生提唱の「健康と長寿のための因縁果報」を介して、
医療者もウイズダム実践し関わる可能性に関する考察
うめした内科 梅下滋人
- (2) TL人間学（魂の学）を学ぶ医師3年目の歩み
——内科当直の1症例を通して
順天堂大学総合診療科 東中園真也
- (3) TL人間学（魂の学）の研鑽によって燃え尽き症候群を克服し、
未来への希望を見出した医学生の2事例
獨協医科大学医学部5年生 小村佳子
福井大学医学部5年生 平井敦子
- (4) オンライン診療により、快方に導けた遠方在住の難治性頭痛患者の1例
——オンライン診療の可能性を考える
梅ノ辻クリニック 山田洋司

午後の部 14:30 ~ 17:30

14:30 ~ 16:05 パネルディスカッション：日本再生の潮流を起こす——超高齢多死社会を迎え撃つ
座長 中川の郷療育センター 許斐博史

教育講演 人口減少と医療の行方

人口減少対策総合研究所理事長 河合雅司

- (1) 超高齢多死社会における急性期病院の現状と展開
——総合診療医として

永寿総合病院 池田啓浩

- (2) 人間を魂と見る看護で超高齢多死社会を迎え撃つ

トータルライフ訪問看護ステーション雷門 江川恵子

- (3) 超高齢多死社会を迎え撃つ在宅医療の未来像

医療法人財団はるたか会 前田浩利

16:10 ~ 16:45 シンポジウムⅢ：〈コロナ禍におけるTL人間学（魂の学）実践による挑戦〉
座長 東京トータルライフクリニック 藤 純一郎
永寿総合病院 池田啓浩

- (1) 「因縁果報ウイズダム」に基づく Acute Care Hospitalist としての挑戦
——コロナ禍におけるチーム医療とこれからのに向けて

南多摩病院 光永敏哉

- (2) 新型コロナワクチン接種事業における協同するための
システム構築への挑戦

新型コロナウイルスワクチン接種対策室 和地真実

16:45 ~ 17:20 シンポジウムⅣ：〈TL人間学（魂の学）に基づく新たなシステム創造への挑戦〉
座長 富士市立中央病院 笠井健司
東京トータルライフクリニック 千葉宙門

- (1) 持続可能な地域社会を守り支えるため、地域基幹病院における
「因縁果報ウイズダム」に基づいた取り組み

江別市立病院 高橋早織

- (2) 「魂の学」に基づく因（心）の転換によって道がついた、
包括的セクシャリティ教育とユースクリニック

岡山中央病院 金重恵美子

17:25 ~ 17:30 閉会の辞